

## 熊本県立八代高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

## 1 学校教育目標

「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤として本校の綱領である  
 ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere.  
 ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined.  
 ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded.  
 を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。

## 2 本年度の重点目標

- ① グローバル人材育成プログラムの更なる充実（知の触発プログラム・アクションプログラムの推進と精選等）
- ② 新学習指導要領を踏まえた指導方法の実践と更なる改善（主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用等）
- ③ 学校の魅力向上と発信の充実
- ④ 中高一貫6か年のグランドデザインの完遂
- ⑤ 学校における働き方改革の推進

## 3 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価の観点 小項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校 経営	グローバル人 材育成	◇グローバル マインド並び にグローバル スキルの向上	○実践的英語発 信能力の育成を 図ると同時に、各 種自己研鑽活動・ 社会貢献活動に 自発的に参加す る態度を育成す る。 ○グローバルな 視点をもって地域 の発展に貢献す るグローカル人材 を育成する。	・即興型英語ディベ ートやエンパワーメントプ ログラムの実施、外國 語資格取得を推奨す る。 ・グローバルアクション 通信を発行し、自己研 鑽活動等への参加奨 励を行う。 ・各種講演会等（知の 触発プログラム）を実 施する。 ・「探究（総合的な探究 の時間）」において、S DGsの達成を目指した 地域活動と課題研 究を実現させる。	A  ・授業での即興型英語 ディベート、また、実用英 語検定への指導等行つ た。エンパワーメントプロ グラムは参加希望が少 なく、中止となつた。内 容や募集方法等の改善が 必要である。 ・夏休みを中心に多くの 生徒が清掃ボランティア 活動等に参加した。 ・オンラインも含め、各学 年、JRC等の主催で 様々な講演会を実施し た。 ・学校評価アンケートで は生徒保護者ともに9割 程が肯定的な回答であ る。
	中高一貫教育 の推進	◇中高一貫6 か年グランド デザインの完 遂	○中高6か年のグ ランドデザインを 柱として、より質 の高い中高一貫 校としての教育課 程を編成する。 ○異年齢交流に ついて、組織的、 かつ持続可能な 形で実施する。	・本校中学出身者に對 する高校での教育カリ キュラムを検証、見直 しを行う。 ・ピアサポートに關し て、総合的な探究の時 間を活用して実施す る。	B  ・学習指導委員会で新教 育課程に對応するため の教育カリキュラムの檢 証等を行つた。今後、定 員70名への對応やIB導 入への準備が必要であ る。 ・鳳雛祭や校内での募 金活動等、中高合同で取 り組むことができた。ピア サポートは実施できてい ない。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	業務改善及び 働き方改革の 推進	◇勤務時間 の適正管理 ◇業務の削 減・効率化	○月の時間外在 校等時間の上限 (月45時間)以内 の割合を前年度 比で3ポイント増 加させるとともに、 上限時間を意識し た働き方を推進す る。 ○朝礼を週1回 (月)実施とし計画 的な業務遂行を 促すとともに、専 門家の活用を推 進する。	・タイムカード等による 勤務時間の適正管理 等に加え、管理職や産 業医による面接を充実 させる。 ・ClassiやGoogleアプ リを活用した情報共有 を推進し、業務効率化 を図る。 ・SC、SSW、部活動 指導員等の専門的人 材を積極的に活用す る。	B	・タイムカード等により在 校時間を把握し、長時間 勤務が認められる教職 員には管理職による面 談を行うとともに、必要に 応じて産業医による面接 を行った。 ・月の時間外在校等時間 の上限以内の割合は前 年度が56. 6%であった のに対し今年度は49. 2%(12月末現在)であ った。 ・GIGAスクール構想に伴 い、Googleアプリ等を活 用した校務情報化のス キームを構築していると ころである。 ・SCの活用については1 月までに生徒43件、保 護者26件の相談があっ た。SSWに關しても状況 に応じて派遣を要請し、 支援につなげている。 ・部活動指導員を2人配 置し、生徒の技術の向上 や教職員の負担軽減に 成果を上げている。
学力 向上	教師の指導力 向上	◇思考力、表 現力、判断力 の育成、学び に向かう力や 人間性の涵 養を踏まえた 授業改善	○生徒による授 業評価において、 思考や表現等を 伴う主体的学習 の充実、ICT活用 等による「わかる 授業」の実践につ いての評価の平 均が3. 2(4段階 評価)を超える。	・授業力向上のための 教科等研修会への参 加を推進するととも に、本校所属のス ーパーティーチャーの指 導を受ける機会を提供 する。 ・生徒による授業評価 を年2回実施し、授業 改善のPDCAサイクル を構築する。 ・職員間の公開授業週 間を設定し、個々の授 業改善につなげる。	B	・1人1台端末の活用 や主体的・対話的で深 い学びの実現に向け た授業改善を図るた め、7月と11月に公開 授業週間を設定した。 また、2学期以降はお 互いの授業を自由に 参観できるようにした。 しかし、授業を参観し ている職員はそれほど 多くはないなど、課題 が残った。 ・生徒による授業評価 アンケートを2回実施 し、総合評価の平均は 3. 3(昨年度は3. 2) であった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	生徒の自発的な学習の促進	◇授業と家庭学習における予習・復習を連動させた学習指導の展開	○学年ごとの目標学習時間を設定し、過半数の生徒が目標を達成する。	・各学年における適切な目標学習時間を設定する。 ・各教科において、週末課題など家庭学習の支援を行う。 ・毎学期の期末考査2週間前に宅習時間調査を実施し、家庭学習、読書等の指導に活用する。	B	・宅習時間調査を行うことで家庭学習への意識付けを行った。また、各教科・学年において計画的に週末課題等を課し、学習習慣及び学力の定着を図った。生徒が主体的に学習に取り組むようにするための授業改善等が今後の課題である。 ・学校評価アンケートにおいて、「目標とする家庭学習時間を達成できている」に肯定的回答をした生徒は56.1%であった。
キャリア教育(進路指導)	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇Classiを活用した個人の成長記録の蓄積 ◇担任団や他部署との協働による進路指導	○将来の学び、社会での活躍場面まで考えさせ、志望大学決定のプロセスを充実させる。在学中本校のプログラムに積極的に参加させ、自己の成長を意識させる。	・低学年より一貫して成長をサポートする。知の触発プログラムの一環として講演会やワークショップを他部署と協力して実施する。	A	昨年は中止したインターンシップを実施でき、多くの生徒が参加した。感染予防の工夫をして学問講座鳳雛を実施した。「進路の手引き」、「道」を通して、大学入試改革やポートフォリオ作成について情報を発信した。
	入試改革および新課程に対応する確かな学力を身につけさせる指導	◇6年間の進路指導グランドデザインの完遂 ◇職員の教科指導力向上と授業改革	○求められる学力を育成するための6年間の指導方針の完成。 ○他の部署、学年、教科と連携し、生徒が志を高く目標を設定し堅持する態勢を作る。	・入試改革関連の情報を与え、進路を考えさせるための仕掛けを多様な形で提供する。 ・全職員が最新の入試動向を理解し、授業改革および教科の指導力向上に努める仕掛けを用意する。	B	各教科で大学入試問題分析を行い、職員全体で研修をして、最新の入試動向、生徒に求められる力について理解を深めた。模擬試験の結果を分析、検討し、生徒の学力向上や進路意識の高揚に向けて方策を考えた。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇自ら適切に判断し、行動しようとする態度の育成	○自己教育力を身につけ、常に5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整美ができる生徒を育成し、3学期までに整容指導における指導対象者ゼロとする。	・全職員共通理解のもと、不公平感のない指導を行う。 ・整容指導の回数を減らし、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を自ら考え行動できるように指導する。	B	整容指導の回数を学期に一回に減らし実施した。全職員共通理解のもと、普段の指導を充実させ整容指導を無くすようにしたい。時間厳守や挨拶の励行等も継続的な指導が必要である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	生徒の危機管理能力の向上	◇交通マナー向上、交通事故の防止 ◇情報モラルに係る危機管理能力の向上	○今年度の交通事故件数を10件以下にする。 ○ネット上の問題事案をゼロにする。	・登下校指導を適時実施する。PTAと合同登下校指導を定期的に行う。 ・情報科、人権教育部と連携してネットモラルと危機管理能力を向上させる。	B	交通事故件数は4件であり、重大事故は無いが車との接触事故が多い。登下校中の交通ルールの遵守が課題である。ネット上の問題事案は数件起きている。情報教育については、今後も継続して情報科、人権教育部と連携して予防的な指導に重点を置きたい。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。	・人権部落問題学習(1回)及び校内人権集会(2回)を実施するとともに、地域の子ども人権集会への参加を呼びかける。 ・地域主催の人権同和教育研究集会(原則全員)や現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。 ・人権教育通信を学期2回以上発行し、啓発を図る。	A	学年ごとに人権部落問題学習を中高連携して取り組んだ。統一応募用紙の精神や八代市の部落問題、LGBTQについて学び、人権意識の高揚を促した。一方、人権集会では水俣病問題に関して当事者の講話を聞き、差別の構造について認識を深めた。一方、職員が市の研究集会や現地研修会に参加し、地域の人権部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。
	生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備	◇障がいの有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の教育支援計画及び指導計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。	・授業時や学校生活の中でのきめ細かな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年2回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開く。 ・個別の教育支援計画及び指導計画を立て、それに基づき支援を進める。	A	・生徒理解研修において支援を要する生徒の現状報告をおこない、職員への共通理解を図ると共に、学年会や人権教育部会においても週1回生徒の情報交換を行い、丁寧な対応を実施した。 ・特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を作成し、個々に応じた支援体制の充実を図った。また、支援員との連携を図り、難聴生徒の対応に努めた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていくとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をとおし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を高める学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・人権教育を通じて育てたい資質・能力に関する関係資料の説明を行い、自らの教育場面でのありようを振り返る職員研修を行った。自らの言動が児童生徒の人格形成に大きな影響を与えることを自覚し、学校における言語環境の整備に努めることの重要性を共有できた。 ・人権集会やLHR、人権教育通信などを通じて、被差別の状況にある当事者の思いに触れさせることを心がけ、人権意識の高揚を図った。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査により、いじめの早期発見に努める。	・学期に1回アンケート調査を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開き、実態把握と早期発見・対応を行うとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	B	生徒の実態調査を、教育相談週間や心と体のアンケート、学期に1回行う心のアンケートをもとに実施し、その後問題解決のために、面談や周囲への聞き取り等を早期に行った。その経過をいじめ防止対策委員会で話し合い、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策に努めた。また、スクールカウンセラーや関係機関と連携し支援体制の構築を図った。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○総合型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通して、育成を目指す生徒像の共有を図り、地域と連携・協働した取組を推進する。	・「探究(総合的な探究の時間)」において、地域と連携した探究活動を推進する。 ・生徒の安全・安心を確保するため、地域の理解と協力を得ながら、防災避難訓練を実施する。	A	・地域の方々の協力を得ながら探究活動に取り組むことができた。地域の団体・企業・行政との連携がまだまだ不十分であり、その継続性にも不安がある。 ・シェイクアウト訓練は1回実施。また3学期に実施予定の津波を想定している避難訓練は各学年クラスで対応する予定である。

#### 4 学校関係者評価

- ・グローバル人材育成の取組は本校のアイデンティティとなりつつある。コロナ禍における制約はあると思われるが、オンライン開催で着実に進められているように見受けられる。
- ・教師の指導力向上に関して、生徒のアンケートで評価の悪い部分は、少数意見も含め改善できるよう努めてほしい。また、教科会の充実、教材研究等の徹底、教師間の本音での話し合いや悩み等の意見交換を望む。
- ・キャリア教育に関して、職業観の育成のため、卒業生を中心とした職業別講演会を実施してはどうか。
- ・生徒の自発的な学習の推進について、前年と比較して向上していると思う。毎年宅習時間の少なさが問題になっていたが、アンケートで肯定的回答が増えているのは成果と見なされるのではないか。
- ・生徒の危機管理能力の向上に関して、昨年度PTA安全委員会をなくしたことに伴い、PTA全員で協力できると思う。実施日・場所等を決めて協力者を要請し、実施してもいいかもしれない。
- ・地域とともにある学校づくりについて、かなり積極的に取り組まれたと思う。先生方も生徒も熱心だった。
- ・高校からは八代中学校以外の出身者が多いという状況の中、公平性を維持しながらどのようにして中高一貫教育を目指すのかという点について、悩ましいと思われているのではないかと思う。
- ・アンケートで高校教員が難しく感じている「中高一貫教育校としての組織体系が確立され中高連携の取組が円滑に行われている」が気になった。この項目は中学校教員も更に難しいと感じている。このことは、八代中学校・八代高等学校の根幹なので最も取り組むべきではないかと思った。
- ・八代中学校の募集定員が減になったことに伴い、高進クラスの人数が増加することになる。高校の各年次におけるクラス編成のあり方を見直す必要があるのではないか。(1年次中進クラス2学級、2年次以降のいわゆる「難関大志望クラス」の見直し等)
- ・新型コロナの影響で、様々な活動・活躍が制限され、子供達の力が出せなかつた1年になって残念である。それでも、1人1台タブレットの導入、GIGAスクール構想に伴う新たな授業の進め方からの生徒の学習意欲の変化も楽しみにしている。

#### 5 総合評価

- ・教育活動全般に関して、生徒・保護者・教職員へのアンケート及び学校関係者評価においておおむね高い評価を得た。特に、グローバル人材育成の取組、地域と連携した探究活動、人権教育及び特別支援教育の推進についての評価が高かった。
- ・教師の指導力向上に関して、アンケートでは一定の評価を得ているものの、否定的な評価も少数ながら見られる。
- ・生徒の自発的な学習の促進に関して、家庭学習時間の確保に係る生徒の自己評価は若干向上しているが、不十分だとする生徒も4割程度いる。
- ・中高一貫教育校としての組織体制の確立、中高連携の取組に関して、半数近い職員が不十分だと考えている。このことは、学校関係者評価においても重要な課題ではないかとの指摘を受けている。

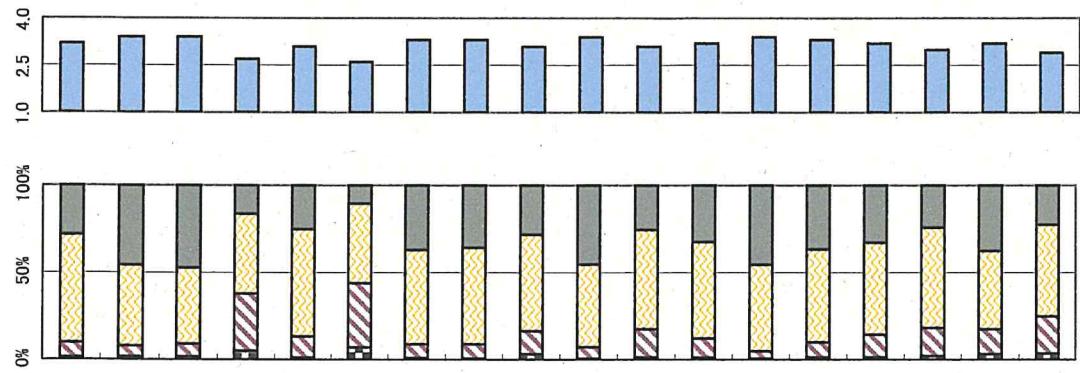
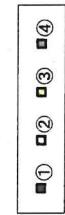
#### 6 次年度への課題・改善方策

- ・グローバル人材育成の取組、地域と連携した探究活動、人権教育及び特別支援教育の推進に関しては、現在の取組を今後も継続するとともに、更なる充実に向けブラッシュアップを図る。
- ・教師の指導力の更なる向上を目指し、スーパーティーチャーの活用、授業の相互参観の活発化、授業におけるICT活用のスキルアップ等を図るとともに、次年度入学生から施行される新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の充実を図る。
- ・生徒の自発的な学習の推進に向けて、授業改善及び学習評価の充実に引き続き取り組むとともに、宅習時間調査の活用、次年度から高1・高2に導入する学習支援サービスの活用等により、生徒が自ら学ぶ姿勢を育む。
- ・中高が一体となって校務運営を行うことができるよう組織体制を見直すとともに、職員の意識改革を図る。また、各教科、分掌等における中高それぞれの取組について共通理解を図るとともに、中高の接続が円滑に行われるよう、取組内容の工夫・改善を図る。さらに、IB導入に向けた準備を着実に進める。

## 令和3年度 学校評価 集計表 <生徒>(高校)

	① 全く当た ない (1点)	② やや當た ない(2 点)	③ やや當て はまる(3 点)	④ よく當て はまる (4点)	回答 数	平均
1 学校では、英語力を高める取組や、外国语資格取得に向けた支援が行われている。	1.4	8.3	62.0	28.3	637	3.2
2 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	1.7	6.3	46.4	45.6	638	3.4
3 学校では、「探究(総合的な探求の時間)」において、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指した活動が行われている。	1.7	7.4	43.6	47.3	638	3.4
4 中高一貫教育校の特色を生かした教育活動が行われている。	5.0	32.8	45.8	16.4	635	2.7
5 授業は、内容や形態、学習方法などが工夫されていてわかりやすい。	1.1	12.1	61.8	25.1	638	3.1
6 私は、目標とする家庭学習時間を確保できている。	7.1	36.8	45.6	10.5	636	2.6
7 総合的な探求の時間やLHRなどで、進路を考える学習活動が行われている。	0.9	8.0	54.1	37.0	638	3.3
8 学校では、入試改革関連等の進路情報が提供されている。	0.6	8.3	55.3	35.8	637	3.3
9 学校は、先生方の共通理解のもと、不公平感のない生徒指導が行われている。	3.1	13.3	55.3	28.2	638	3.1
10 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を心がけている。	0.6	6.6	47.5	45.3	638	3.4
11 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	1.4	16.0	57.2	25.4	638	3.1
12 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	1.1	11.0	55.5	32.4	636	3.2
13 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	0.6	4.2	49.6	45.5	637	3.4
14 先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	1.4	8.5	53.4	36.7	637	3.3
15 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	1.4	13.0	52.8	32.8	638	3.2
16 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	2.0	16.1	57.7	24.1	638	3.0
17 「探究(総合的な探求の時間)」等において、地域と連携した探究活動が行われている。	3.1	14.3	45.1	37.5	637	3.2
18 学校では、防災について学ぶ機会がある。	3.6	21.2	52.7	22.6	638	2.9

(%) (人)



## 令和3年度 学校評価 集計表 <保護者>(高校)

	① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや當て はまる (3点)	④ よく當て はまる (4点)	回答 数	平均
					0% 50% 100%	
					■① □② ▨③ ▨④	
1 学校では、実践的英語力の育成のための取組や、外国語資格取得に向けた支援が適切に行われている。	2.0	17.5	60.3	20.1	343	3.0
2 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	0.6	6.7	59.4	33.3	342	3.3
3 学校では、「探究(総合的な探究の時間)」において、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指した活動が行われている。	0.3	11.7	62.4	25.7	343	3.1
4 中高一貫教育校の特色を生かした教育活動が行われている。	2.3	24.8	49.9	23.0	343	2.9
5 学校における働き方改革が推進され、職員の勤務時間の適正化、心身の健康の維持増進が図られていると感じる。	1.5	22.2	65.5	10.8	342	2.9
6 凱離祭などの学校行事は、保護者に開放されている。	0.9	7.0	46.6	45.5	343	3.4
7 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	1.5	21.9	62.6	14.0	342	2.9
8 学校は、保護者に授業参観や公開授業の機会を適切に設けている。	5.2	34.4	46.1	14.3	343	2.7
9 学校は、生徒の学習意欲を喚起する取組を行っている。	4.4	30.0	55.1	10.5	343	2.7
10 学校は、生徒が自らの進路について考える取組を行っている。	2.0	20.4	57.1	20.4	343	3.0
11 学校では、入試改革関連等の進路に関する情報を探して保護者に適切に提供している。	5.2	24.5	53.9	16.3	343	2.8
12 学校は、生徒の実態や人権尊重の立場から適切な校則を設けている。	2.0	16.6	65.6	15.7	343	3.0
13 子どもは、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶をしている。	0.9	14.9	55.7	28.6	343	3.1
14 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	2.9	27.8	59.4	9.9	342	2.8
15 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	0.9	19.9	68.4	10.8	342	2.9
16 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	1.7	13.4	68.2	16.6	343	3.0
17 先生方は、子どもの悩みや相談になつて応じてくれる。	1.7	19.0	57.1	22.2	343	3.0
18 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	1.8	20.2	65.5	12.6	342	2.9
19 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	2.6	25.7	63.5	8.2	342	2.8
20 「探究(総合的な探究の時間)」等において、地域と連携した探究活動が行われている。	1.8	16.1	59.1	23.1	342	3.0
21 学校では、防災について学ぶ機会がある。	2.3	30.4	57.9	9.4	342	2.7

## 令和3年度 学校評価 集計表 <高校教職員>

	① 全く当て はまらない (1点)	② あまり當 てはまらない (2点)	③ やや當て はまる (3点)	④ よく當て はまる (4点)	回 答 数	平 均
					■① ■② ■③ ■④	
1 学校は、実践的英語力の育成のための取組や、外国語資格取得に向けた支援を適切に行っている。	0.0	2.3	46.5	51.2	43	3.5
2 学校は、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介を行っている。	0.0	2.3	25.6	72.1	43	3.7
3 学校は、「探究(総合的な探究の時間)」において、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指した活動を行っている。	0.0	0.0	23.3	76.7	43	3.8
4 中高一貫教育校としての組織体系が確立され、中高連携の取組が円滑に行われている。	0.0	48.8	34.9	16.3	43	2.7
5 タイムカード等による勤務時間の適正管理、管理職や産業医による面接体制が整っている。	0.0	9.3	37.2	53.5	43	3.4
6 ClassiやGoogleアプリを活用した情報共有により、業務効率化が図られている。	2.3	11.6	62.8	23.3	43	3.1
7 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	0.0	2.3	58.1	39.5	43	3.4
8 学校は、授業力向上のための教科等研修会に参加したり、本校所属のスーパーティーチャーの指導を受ける機会を適切に提供している。	0.0	9.8	58.5	31.7	41	3.2
9 私は、職員間の授業見学や生徒による授業評価等を通して、授業改善に取り組んでいる。	0.0	7.7	66.7	25.6	39	3.2
10 私は、各学年において適切な目標学習時間を設定し、周知している。	0.0	20.5	56.4	23.1	39	3.0
11 私は、教科指導において週末課題など家庭学習の支援を適切に行っている。	5.1	15.4	46.2	33.3	39	3.1
12 私は、各学期に実施される宅習時間調査を、家庭学習や読書等の指導に活用している。	2.6	28.2	53.8	15.4	39	2.8
13 学校は、総合的な探究の時間やSRなどを通して、進路を考える学習活動を計画的に行っている。	0.0	9.5	50.0	40.5	42	3.3
14 学校は、入試改革関連等の進路情報を生徒及び保護者に対し適切に提供している。	0.0	2.4	53.7	43.9	41	3.4
15 職員の共通理解を図り、学校として統一した生徒指導が行われている。	0.0	20.9	55.8	23.3	43	3.0
16 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を指導している。	0.0	4.9	61.0	34.1	41	3.3
17 学校は、交通安全についての啓発活動を行っている。	0.0	7.0	62.8	30.2	43	3.2
18 学校は、情報モラル教育を計画的に行っている。	0.0	14.0	58.1	27.9	43	3.1
19 学校は、生徒及び職員の人権意識の高揚を図る取組を適切に行っている。	0.0	2.3	46.5	51.2	43	3.5
20 生徒理解研修等を通して、支援を要する生徒の実態把握と共通理解が図られている。	0.0	0.0	30.2	69.8	43	3.7
21 個別の教育支援計画及び指導計画をもとに、必要な支援が適切に行われている。	0.0	2.5	40.0	57.5	40	3.6
22 学校では、命を大切にする心を育む教育を適切に行っている。	0.0	4.7	46.5	48.8	43	3.4
23 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	0.0	2.3	48.8	48.8	43	3.5
24 学校は、「探究(総合的な探究の時間)」等において、地域と連携した探求活動を推進している。	0.0	0.0	44.2	55.8	43	3.6
25 学校では、防災に関する取組を計画的に行っている。	0.0	7.0	65.1	27.9	43	3.2

(%)